

H25.9月 巻頭言：有名神社の境内で見たもの —木づかいの中心で、もうちょっと木づかいは—

先日の休日に、日本でも有数の有名神社に行く機会があった。山門から威厳のある木造建築が並んでいて、境内にはケヤキ、スギ、ヒノキの巨木が立っている。境内の内側のほとんどの構造物が木と石で作られている。修復も行われていて、劣化した部分だけ切り取り、新しい木とダボで繋いだりして、古いものを大事にしながら大切に使っている。さすがに、材料は優良材であることが一目でわかる厚板や柱、カヤ、サワラ板、桧皮等である。参拝客も満足そうである。

この中で、ちょっとと思えるものがあつたので列挙してみよう。

- ・ 境内の修復工事の工事用看板が道路工事と同じ鉄板に工事中と書かれたよく見かけるもの
- ・ 境内に置かれた色の剥げ落ちたサビの出ている、これもよく見るパイプのベンチ
- ・ 入口で手を净めるための柄杓がプラスチックだったり、接着剤でつけられた木の品物
- ・ 全く唐突にあるキラキラしたいつもの電話ボックス
- ・ 社務所の一部の窓だけが木の建具でなくてアルミサッシ
- ・ 社務所の中を見るといつもの鉄製のパイプイスと折りたたみ机
- ・ 夜間照明の柱が疑木コンクリート

このように全体の雰囲気とは、ちょっと違和感のある物が見られる。別の言葉にすればトータルコーディネートが完璧ではないということになる。全体には申し分ないが、あくまで完璧ではないということなので。

別の寺院では、重要文化財が置かれたRCの本堂の横に、純和風のヒノキの現わしの新築された自宅があった。神社、寺院は木の文化の象徴でもあるが、中心となる建物以外についても、もうちょっとだけ木づかいが欲しいと感じた。社寺用材の加工者や宮大工さんの仕事とは直接関係はないが、助言ぐらいはできるかもしれない。結果的に観光資源にもなっているので所在市町村の行政にも関心を持ってもらえるとうれしい。最後は、氏子、檀家かなあ～。

トピックス１：木造庁舎計画続々と —成功の鍵を握るためには—

管内にも、木造庁舎計画が続々と計画され、建築中の町もある。計画の中には、本庁舎、ホール、図書館等セットの計画もでてきている。この大計画に至った経緯をみれば、実現に向け議会の先行地実例を視察に行ったことが大きなポイントである。行程をみると様々なタイプの施設を精力的に回っている。見なければ、その地域の中心都市の市役所のマネをするだけである。木造庁舎、木質内装庁舎の優良物件としてPRしている会社の建築物（〇〇工法）でなく、幅広く見学コースを日本の地域ブロック毎に整備して、議会人だけではなく関係者が行き易くすることが緊急の課題である。当管内でも署毎に簡単の木造施設の見学コースを整備し始めている。

２０数年前、出向していた町の庁舎建築が決まり議会の視察に先行事例を見に行き、その帰りの道中では、既に参加者全員木質内装化でやろうと一致していた。

次に、実際に優良物件となる鍵は何かということを列挙してみよう。

- ・ 市町村長の固い決意がいること
- ・ 設計者が木造、木材について、深い知識、最新の知識と知恵、地域の林業、木材産業に理解を示していること。逆に、そういった設計者を選ぶこと。
- ・ 材料発注に当たって、入手し易く、価格の安い流通寸法を多くして、どうしても必要な特注せざるをえない場合は、特注の寸法品質の物は早く発注すること
- ・ 時間と共に変化する木材の１０年後を考えて行うこと。（カラマツ、アカマツ等の色は良くなる。スギの源平（赤色の部分と白色の部分が混じった材料）は色むらがなくなる。
- ・ メンテナンスで行うべきことを決めておくこと
- ・ 建物と備品の調和を考えておくこと

最後のポイントは庁舎に限らないが、備品（机、イス、ロッカー、書棚、サイドボード等）が全く釣り合わず台無しの例が多い。

最後に、全国の最新状況、５０００㎡、１００００㎡クラスの特養ホーム等が沢山建ち始めている。大規模だから、木造を検討しないとの考えは捨てなければならない。来月には、再度木造３階建ての学校の実大火災実験が下呂市で行われることとなっている。

トピックス 2 : サービス付き高齢者向け住宅の取組み —何とかならないの?—

高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律が平成 23 年度に成立している。この法律では、「高齢者の居住安定を確保するため、バリアフリー構造等を有し、介護、医療を連携して高齢者を支援するサービスを提供する『サービス付き高齢者向け住宅』の登録制度の創設が図られ、登録を受けた住宅の整備に対し、国は地方公共団体に交付金を交付できること」とするとされている。

この法律を受けて、高齢者等居住安定化推進事業として今年度 340 億の予算措置がされ、民間事業者、医療法人、社会福祉法人、NPO 等に対し国から直接補助を行うとされている。

建築費の 1 / 10、改修費の 1 / 3 の補助がなされ、所得税、法人税、固定資産税、不動産所得税の税制改正もなされている。

何を長々と解説しているかというと、木材・木造関係者は、木材利用ポイントはもちろんであり、住宅エコポイントや地域優良住宅には関心は高いが、この制度には余り関心がない。ところが、現在聞くとところによると、病院等医療機関に携わった設計者を使った申請が多く、居住環境ではなく、医療施設に近く、入居者には不満なものが多いとのことである。賃貸とかになると地域の木材木造関係者は弱いのが実態だが、急激に増加している特養ホーム等の木造化でノウハウがある者の参入が望ましい。木の床と木の手すりとか木の家具とか得意とする関係者も多い。是非、国土交通省のHPを一度ご覧にいただき、取組みの前進を望みたい。

課題 1：家計に占める燃料代比率 —全国平均ではどうかなあ？—

一般的な家庭での燃料は調理用、暖房用があり、調理用はガスが中心で電気もある。暖房用は、ストーブを中心にガス、電気、灯油となっている。一般的にはとしたが、別に掲げる価格の推移を見てみると、プロパンガス、灯油は一本調子で上がり続けており、約2倍に値上がりしている。しかし、話題には余り上らない。何故だろうか？大きな町である都市では都市ガスが主流である。都市ガスには興味はあっても、使わないプロパンガスには興味がない。暖房でも、寒いところしか灯油は焚かない。北日本を除けば、東京始め暖房用のストーブやこたつで電気や都市ガスで十分である。ところが寒い地方は半年は暖房が必要で昼夜使うので灯油代への関心は高いが、日本全体では関心はうすいことになる。このように、日本全体と地方、寒冷地の家計に占める燃料代のかかり方には大きな差があるんだけど、全国的な話題にはならない。

石油製品は皆同じかといえば、必ずしもそうではないが、例えば車用のガソリンを考えてみよう。都市では車のない生活も可能だが、地方では難しい。しかしながら、ガソリンの値上がりだけではないが、燃費の向上が大幅に進んでいる。今や30 km/ℓの時代で、10 km/ℓの時代と比較すれば3倍に伸びている。100 円/ℓから150 円/ℓに上がっても、家計で支出するガソリン代は減ることになる。ガソリンスタンドが廃業する一因でもある（設置基準の見直しは別にして）プロパンガスと灯油では同じことにならない。う～ん、そうか。

ここにきて、薪ストーブが見直されている話題を書いているが、東日本大震災や北海道の冬の大停電でファンヒーターが役に立たなかったという災害対策や、炎のゆらぎのあったかさというメンタル効果ではない事象がポイントである。

家計に占める支出が「実は安いんじゃないか」である。参考に別紙2に仮計算を載せてみます。

家庭の暖房用として本当に重要なのは、ここがポイントだと思う。特に冬の長い北国では大きなメリットがある。日本の森林資源に支払えば、日本の森林にも関心が高くなる。関心の薄い地域は別にして、是非比較計算をやってみましょう。忘れてならないのは、自動車の燃費向上は、地球温暖化対策の一方策でもあるんだよね。暖房用の灯油も地球温暖化対策上は同じだね。

I 序論ー4 家計と木質バイオマスエネルギー

石油代と薪代の比較例1

某薪ストーブ販売代理店の試算

石油ファンヒーターの場合

大型(主に使用)2台 中型(個室使用)2台
 暖房面積: 8畳2部屋+6畳2部屋 = 28畳=14坪
 (強 3.5kW・燃費0.34L/h) (強 3.19kW・燃費0.31L/h)



一家全体の
一シーズンの石油代
約16.5万円

内訳

11月～4月の1日の平均使用時間 9時間
 1日平均9h×30日×6ヶ月=1,620h/1シーズン
 燃費0.34×1,620=550L × 2台 =1,100L
 中型は大型の5割使用と仮定 : 550L
 4台合計 = 1,100+550 = 1,650L
 平均価格: 1リットル100円(長野県2012年冬)
 (資源エネルギー庁石油製品価格調査1,800円/18Lより)
 1シーズン合計
 約1,650リットル×100円 = 165,000円
 ※上記は暖房使用例からの試算だが、薪ストーブは24時間
 暖房のため、24時間使用した場合で比較すると数字上
 はこの2.7倍かかる計算となる。
 ※他に電気代がかかる

薪ストーブの場合

定格出力: 7kW
 30～35坪の一軒家を全館暖房
 使用期間: 11～4月



乾燥薪(既製品)
一シーズンの薪代
約14万円

内訳

1m³(軽トラ約1台分) 28,000円×5台=140,000
 *配達料含む



内訳

乾燥薪約5m³分の原木 75,000円
 + チェンソー使用時消耗品 約5,000円

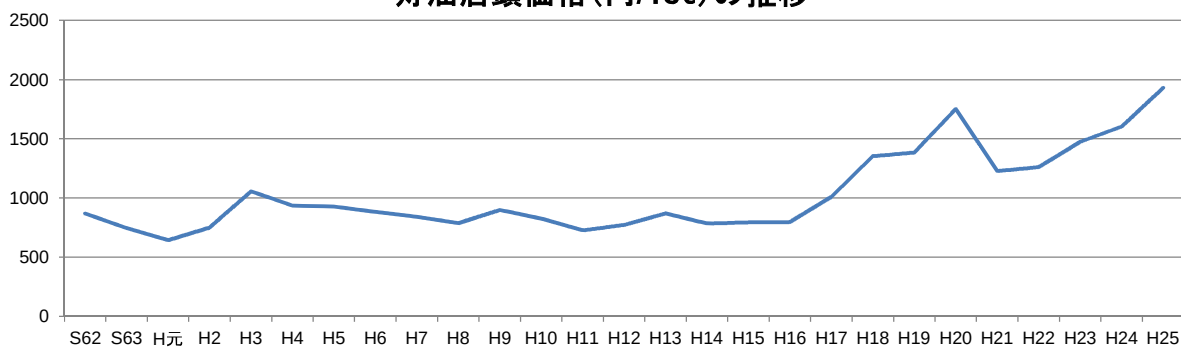


原木購入の場合の
一シーズンの薪代
約8万円+α

-14-

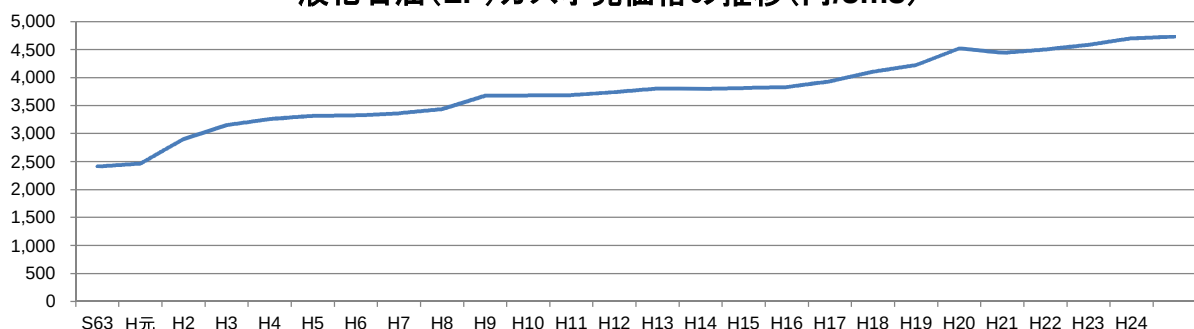
II 本論ー4 まとめ① 化石エネルギーの価格推移

灯油店頭価格(円/18ℓ)の推移



※月次データ(S62.4～H23.3)、週次データ(H23.4～H25.8)の年平均

液化石油(LP)ガス小売価格の推移(円/5m³)



※隔月データの年度平均

課題2：竹の悲哀

—身近だった竹は今どうなったか—

日本最大の資源は、森林と森林が育む水である。その森林の資源は「立木竹」といわれる。その意味は、立っている木と竹である。木のことは話題になるが竹のことは話題になかなかのらない。林野庁でも木材課はあるが、竹は特用林産対策室で扱っている。その中でもきのこ係長はいても竹係長はいない。竹は旧くから日本人にとっては、親しみを持った身近な存在である。

慣用句にも、「木と竹を繋ぐようなもの」「竹を割ったような性格」とか「竹馬の友」とか言われるし、かぐや姫は竹から生まれている。子どもの時の遊びにも竹とんぼや竹馬が一般的であった。現在はあまり評価されない。

山口県の萩市は夏みかんの輸出で盛えたが、その輸出用のかごは竹かごだった。この竹資源を利用して、竹専門の日東製紙という製紙工場もあったが、今はない。根曲がり竹で北海道の天塩川製紙を使おうとしたが、今はしてない。いずれも回りに沢山あるのに原料集荷が難しかったようだ。現在、中越パルプが荒廃竹林対策として竹を受入れており、機械の貸出も NPO 法人等に行っている。

竹が資源として使われていた時代の最大の用途は建物の土壁の下に使われていた竹小舞だったが、湿式工法から乾式工法に代わり、一挙に衰退した。現在の最大の用途は養殖用の筏である。竹が使われていた塀にも竹の色と形をしたプラスチック製の比率が大きくなっている。利用されないで竹林は拡大し、竹藪となって森林に侵入して木を枯らすやっかいものに位置づけが多くなっている。この正反対が観光地京都でのタケノコ園等はきちんと手入れされ、風景も美しく管理竹林と呼ばれている。竹をもっと利用しないと「立木竹」の言葉が泣いてしまう。

竹のついた漢字をみれば、笛、筆、筒、管、箱、竿等様々な用途の名残がある。葉っぱである笹だって笹団子やお刺身の下に敷かれて利用されていた。そうか七夕飾りが一番身近だった。竹を伐るのは難しいし、中が空洞の分だけ運搬コストが高い。加えて管理されていない竹林は利用勝手が悪い。竹の利用は優良な森林の育成にも急務である。皆んなで使い途の策を考えて、笑える時代を築こう。（策も、笑も築も竹冠でした。）

需要拡大の歴史：日本木質内装材工業会誕生のいきさつ

昭和 60 年代の最後に、木質内装材研究会が立ち上がった。この当時は、川上側として人工林として植えられて成長した針葉樹の中小径材をどのように利用していくかが課題であった。一方、川下側からは、和室から洋室の比率が上昇する中で、洋室向きの木質内装材の開発ニーズが高まっていた。また、当時床材はフローリング、複合床板の製品をベースとして JAS 化並びに製造、規格、施工までを担保する組織化が図られていたが壁材には、そうしたものは皆無であった。洋室向きの壁材は唯一腰壁だけが学校や住宅の廊下に使われる程度であった。この川上側と川下側のニーズを合体して作られたのが木質内装材研究会である。この頃、居住環境に木材を使うことの研究の成果を「木質環境ハンドブック（朝倉書店）」としてまとめられ、木質内装材への期待が高まったのである。

この本には、音編、におい編、ゆらぎ編等の項目毎に分かれており、当時の集大成であった。この研究会発足後、木質内装材展を芝公園にあったビルで開催し、その後全国巡回展も行った。

また、設計事務所に捨てられないカタログの作り方等の特徴ある研修も行われた。当初は反応が少なかったが、何年後に注文がきて、聞いてみると設計事務所で、気に入ってもその製品に合う建物の設計委に出会うのには少し時間がかかるということで「3 年位は続けないと」と言われたものである。その後、内装材研究会は日本木質内装材工業会と名称を変えたが、現在、会員数も少ないが、「針葉樹内装用ムク板 S マーク表示制度」があり、「針葉樹内装用ムク板の規格基準施工マニュアル」が発行されている。今こそ、このような製品が出ていく時代である。フローリングも同様であるが、大量の発注があれば、1 社では対応できない実加工の統一化等次に続く課題もあると思われる。このことについてフローリングも含めて業界に聞くと「間に合わせますから大丈夫」と各社からは言われ続けている。まあ、内装については、建築の最後の最後になる発注側の課題もあることはあるが・・・。

このようにして、床だけではない壁・天井向け内装材の生産会社の集まりが始まったのである。

編集後記：通販カタログに見る木製品 —天然木ってな～に—

通信販売のカタログには書棚、イス、テーブル等の木製の家具を始めとする木製品が並んでいる。材質として、〇〇合板、〇〇繊維板、と書いてあるが、解る人はいるのかは疑問だが、今回はそれではない。

樹種名が書いてある品物も多い。オーク、バーチ等であるが、どういう板か、国産の場合は、〇〇産桧、青森ヒバ等きっちりと書いてある。ところが、妙に多いのが「天然木」との記述である。天然木って何かなあ～。樹種を書かないのは、色んな樹種が混在しているからなのか、と考えるがそうではない。〇〇合板、〇〇繊維板と違って、本物のムク木材だと表現したいようで、価格も高いものが多い。塗装がしてあるので、カタログからでは樹種は判別しづらいので解らない。カタログで買う人は、この天然木に何を感じているのか解らない（私には、これは天然木なので高級品ですよと言っているように思える）。しかしながら、樹種を書かない理由は何なのか疑問は深まるとともに、家具の材料としての表示は、もう少しキッチリした方がいいのではと思える。住宅等の建築材料でも合法材証明、認証材証明、地域産材証明等が付けられてきている。森林・林業、木材業界は家具業界のように２次加工業に興味が無いことも問題である。又、デッキ材には、アフリカ材〇〇、南米材〇〇といった商品も多いが、これから何を情報しようとしているのが、今一步不明である。国産材より堅くて腐朽しにくいと言っているようにも見えるが樹種名では何の意味か全く解らない。

家具のホルムアルデヒドの話題も前述したが、この「天然木」の話題も大きな検討の余地があると思えてならない。樹種にこだわりすぎなのかなあ～。

お知らせ

今年度は 20 年に 1 度の式年遷宮で、伊勢神宮の門前町の伊勢市は大賑わいのようである。この伊勢神宮用材の供給地である木曽谷・木曽川も脚光を浴びてもいいと思うが・・・。

供給地である岐阜県中津川市付知、加子母地区で、これに関係したイベントが開催されますので、ご覧下さい。

御神木の里で 木曾ヒノキの文化と歴史を 語るまいか

加子母裏木曾国有林（岐阜県中津川市）にある「木曾ヒノキ備林」は、伊勢神宮の御杣山として古くから御神木を産出しております。

今年10月に行われる第六十二回伊勢神宮式年遷宮の御神木も平成17年に当地で伐採され、付知町からお木曳きが始まり、伊勢神宮まで奉送されました。

その「御神木の里」で、木曾ヒノキにまつわる文化や歴史について、地元研究家らと語り、実際に木曾ヒノキ備林を歩き、見識を深めて頂きたいと思っております。

平成 25 年

10月19日(土)～20日(日)

岐阜県中津川市

付知地区・加子母地区

- 1日目 10:00～ 受付
10:30～ 開会式
11:30～ 木にまつわる文化施設等の見学
19:00～ 語るまいか
- 2日目 8:00～ 木曾ヒノキ備林の見学
14:20～ 解散

◆詳しい日程、注意事項等は裏面をご覧ください。

◇募集人員

20名（定員になり次第締め切ります）

◇参加費

10,000円（食事・宿泊施設利用料等）

◇参加資格

20才以上で2km程度の山歩きの出来る方。

◇募集期間

平成25年9月10日（火）～30日（月）

◇申込み方法

電話で定員の空き状況を確認し、下記参加申込書に必要事項を記入し、FAXで申し込んでください。

◇問い合わせ・申込先

裏木曾古事の森育成協議会
（付知総合事務所内）

電話：（0573）82-2111 FAX：（0573）82-4465



第六十二回伊勢神宮式年遷宮裏木曾御用材伐採式（H17.6.5）の様子

主催：裏木曾古事の森育成協議会

共催：東濃森林管理署

協力：中津川市

きりとらせん

第六十二回伊勢神宮式年遷宮記念「木曾ヒノキ備林見学会」参加申込書

ふりがな 氏 名		年 齢		性 別	
住 所	〒				
電話番号		緊急連絡先			

※参加申込書が必要な場合は、コピーしてお使いください。

◆ ◆ 詳細日程 ◆ ◆

19日（土）

- 10:00～ 受付開始（東濃森林管理署：岐阜県中津川市付知町 8577-4）
- 10:30～ 開会式（歓迎挨拶、アトラクション「木遣り」、他）
- 11:20～ 木にまつわる文化施設等の見学
護山神社～明治座（昼食）～加子母森林組合木材市場～宗教寺～丸博建築造作工場～丸定木工所～辻堂
- 17:00～ 入浴（付知峽倉屋温泉「おんぼいの湯」）
- 18:10～ 夕食（道の駅加子母「ゆうらく館」）
- 18:45～ 宿泊施設入所（ふれあいのやかたかしも：岐阜県中津川市加子母 3890-3）
- 19:00～ 語ろまいか（ふれあいのやかたかしも）
地元歴史研究者らの話を聞き、郷土料理や地酒を囲む車座交流会

20日（日）

- 7:00～ 朝食（道の駅加子母「ゆうらく館」：岐阜県中津川市加子母 3900-29）
- 8:00～ 木曽ヒノキ備林見学（加子母裏木曽国有林）
裏木曽古事の森～王滝新道跡～ヒノキとサワラの合体木～美林橋～
第62回伊勢神宮式年遷宮裏木曽御用材伐採跡～斧入れ式跡～
二代目大ヒノキ～高樽の滝（昼食）～赤石園・地獄淵・護山神社奥社入口
※「二代目大ヒノキ」へは往復2kmを歩きます。
- 13:40～ 閉会式（赤石園）
- 14:20 解散（道の駅「花街道付知」 イベント広場：つけち全国レディースクラフトフェア開催中）

◆ ◆ 注意事項等 ◆ ◆

交通関係について

- ①公共交通機関の便が少ないため、受付場所（東濃森林管理署）へは自家用車でお越しく下さい。
- ②参加者の自家用車は東濃森林管理署へ2日間駐車します。解散まで自家用車の所へは戻れません。
- ③開会式終了後、翌日解散するまではすべてマイクロバス（参加費に含まれます）での移動となります。

宿泊関係について

- ④宿泊施設は「研修施設」であり、旅館等の設備はありません。
- ⑤就寝は大広間2室（男女別）を利用した、参加者による相部屋となります。
- ⑥布団の上げ下ろしやシーツ掛けは各自をお願いします（リネン代は参加費に含まれます）。
- ⑦研修施設の風呂は閉鎖中のため、行程の中で倉屋温泉に立ち寄ります。（入浴料は参加費に含まれます）
- ⑧歯ブラシ・タオルは各自で準備をお願いします。

食事関係について

- ⑨19日の昼食、夕食、車座交流会飲食と20日の朝食、昼食は準備（参加費に含まれます）します。

木曽ヒノキ美林見学時の持ち物・服装について

- ⑩標高500m～1000m付近での催事になりますので、防寒着を準備してください。
- ⑪森林内を歩きますので、登山靴、軍手、長袖、長ズボンで参加してください。
- ⑫雨具（カッパ、傘）の準備をお願いします。